

繩文楽検定

第4回 初級 解答

第4回 縄文楽検定 解答集 (初級)

問題	解答	問題	解答	問題	解答
1	c	21	a	41	a
2	b	22	c	42	a
3	d	23	a	43	b
4	b	24	a	44	c
5	b	25	a	45	b
6	c	26	c	46	d
7	c	27	a	47	d
8	b	28	c	48	d
9	b	29	b	49	a
10	d	30	c	50	a
11	a	31	b		
12	a	32	a		
13	c	33	c		
14	c	34	c		
15	b	35	b		
16	d	36	d		
17	b	37	b		
18	c	38	d		
19	b	39	c		
20	a	40	a		

(解説)

初級は、縄文文化全般に関する基本的な知識を問う問題が多かったと思います。3つのテキストから概ね90%以上出題していますが、写真を載せたものなどを中心に少し解説します。

- 1 aはcと同じ長岡市馬高遺跡から出土した火焰型土器で、鶏頭冠の尾部が右上がりか左あがりかで区別できます。bは十日町市野首遺跡、dは津南町道尻手遺跡の王冠型に類似した土器です。(参考：テキストI 5頁)。
- 4 aは長岡市岩野原遺跡出土の三十稻場式土器(縄文時代後期)、cは長岡市山下遺跡出土の火焰型土器、dは十日町市笹山遺跡出土の深鉢土器です。(参考：テキストI 10～11頁)
- 5 放射性炭素(^{14}C)年代測定のAMS法による分析に基づいた年代値です。(参考：火焰土器の国 8頁)

- 9 aは近藤勘治郎さん(近藤篤三郎さんの父)、cは近藤勘太郎さん(近藤篤三郎さんの祖父)、dは中村孝三郎さん(長岡市立科学博物館考古学研究室の初代学芸員)です。(参考:テキストI 5頁)
- 10 鶏のトサカに似ていることから、この名称がつけられました。(参考:テキストI 10頁など ※テキストでは鶏頭冠突起)
- 11 縄文時代は前期が一番暖かく、その後だんだんと寒くなっていったと考えられています。前期は温暖化で海面が高くなった「縄文海進」の時期にあたります。(参考:テキストI 1・3頁)
- 14 現在のところ文字は発見されていません。縄文文化は無文字文化だと考えられています。
- 17 里浜貝塚は宮城県、鳥浜貝塚は福井県、刈羽貝塚は新潟県にあります。
- 23 敲石(たたきいし)、石錘(せきすい、石のおもり)、石槍(せきそう、石のやり)ですが、少し難しかったかもしれません。
- 24 石棒(せきぼう)、独鈷石(どっこいし)と呼ばれています。
- 34 三脚石器は、県内では魚沼地方の集落遺跡から多く出土する石器で、その使用方法については、実用、祭祀用などの諸説があります。(参考:テキストI 7頁)
- 35 男根を模した石棒とともに、縄文時代の信仰に関わる代表的な遺物です。(参考:テキストI 23~24頁、テキストII 7頁)
- 36 妊娠した女性を表現したとも考えられています。(参考:テキストI 23~24頁)
- 43 蛇紋岩は硬質で磨くと光沢が生ずる石材です。(参考:テキストI 22頁)
- 44 「和田峠(a)」は黒曜石の産地、「最上川流域(d)」は頁岩の産地として有名です。また、「姫川流域(c)」はヒスイの産地としても有名です。(参考:テキストI 22頁)
- 46 ごく少数ですが、上部に火焰型土器の文様、下部に縄文を組み合わせる例もあります。(参考:テキストI 9頁、テキストII 8頁)
- 47 火焰型土器の多くは信濃川中・上流域を中心とする新潟県の範囲から発見されています。(参考:テキスト 13~14頁、火焰土器の国 65頁など)
- 48 多くの場合、円形や馬蹄形状に展開しています。(参考:テキストI 4頁)
- 49 信濃川流域では、特に卵形の住居が特徴的です。(参考:火焰土器の国 104頁)
- 50 床の中央から、少しだけずれているのが普通です。地床炉や石組炉などの種類があります。(参考:火焰土器の国 105頁)

※解説文中の「テキストI」「テキストII」「火焰土器の国」は、下記の文献を示しています。

○縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』(信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行)

○縄文楽検定テキストII『信濃川火焰街道 縄文の旅』(信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行)

信濃川火焰街道連携協議会ホームページにPDF版を掲載(<http://www.kaen-kaido.com>)。

○新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』(新潟日報事業社、平成21年4月刊行、定価1,680円・税込)。

